

法然と親鸞

—二人の功績を考える—

(2023年度龍谷大学創立記念・誕生会 講演資料/ 龍谷大学 深草学舎 顕真館/ 2023.05.21)

京都文教大学・平岡 聡

■ 善導の浄土教

- ・「念仏と称名」から「念仏が称名」へ：十念＝十声（＝称）[資料1]
- ・「本願念仏（念仏すれば往生できる）」の発見
- ・三心（至誠心・深心・回向発願心）の重視：念仏＋三心

■ 善導から法然へ（偏依善導一師）

- ・本願念仏から選択本願念仏（念仏しなければ往生できない）へ
- ・三心を念仏に吸収 [資料2]

■ 法然の功績

- ・往相の路を開拓
- ・念仏のアイデンティティ変更（八種選択）：観想念仏＜称名念仏 [資料3]
- ・機根の一元化と往生行の一元化

■ 法然から親鸞へ（法然聖人にすかさずまいらせて～）

- ・行重視から信重視へ [資料4]
- ・往相から還相へ
念仏：「帰命は本願招喚の勅命なり（『教行信証』「行巻」）
信心：「如来より賜りたる信心」

■ 親鸞の功績

- ・大乘仏教を意識
- ・還相回向・菩提心・仏性・一乗思想 [資料5]

■ 変容する仏教（浄土教）：二人の功績とは？

- ・解釈・改読 [資料6] ← 理証・教証・体証
- ・対機説法 → 時機相応化（カスタマイズ） → 仏教の変容

※ 二人の功績＝伝統を重視しながらも、仏教を大胆に時機相応化したこと

[資料1]

- ・『無量寿経』：設我得仏 十方衆生 至心信樂 欲生我国 乃至十念 若不生者 不取正覺（設い我仏を得たらんに、十方の衆生、至心に信樂して我が国に生ぜんと欲し、乃至十念せんに、若し生ぜずんば正覺を取らじ）
- ・『観念法門』：若し我、仏を成ぜんに、十方の衆生、我が国に生ぜんと願ひ、我が名字を称して下は十声に至らんに（称我名号下至十声）、我が願力に乗じて、若し生ぜずんば正覺を取らじ。

[資料2]

- ・「十二問答」：「つねに念仏をだに申せば、そらに三心は具足するなり」
- ・『つねに仰られける御詞』：「ふかく本願をたのみて一向に念仏を唱べし。名号をとふれば、三心おのづから具足するなり」（『法然上人行状絵図』第21巻）

[資料3]

- ①選択本願：阿弥陀仏が本願念仏を選択した（第3章）
- ②選択讃嘆：釈尊は往生の行を列挙するが、念仏のみを選択して讃嘆した（第5章）
- ③選択留教：釈尊は余行に言及するが、念仏の教えのみを選択して後の世に留め置いた（第6章）
- ④選択撰取：弥陀の光明は念仏の衆生のみを照らし、撰取して見捨てることがない（第7章）
- ⑤選択化讃：下品下生の衆生には聞経と称名の二つの行が説かれるが、弥陀の化仏は念仏のみを選択して、衆生を励ます（第10章）
- ⑥選択付属：釈尊は定善（精神を集中して行う善）散善（散乱した心で行う善）を説いてはいるが、念仏の一行のみを後世に付属した（第12章）
- ⑦選択証誠：六方の諸仏は、諸行ではなく念仏による往生こそ真実（誠）であると証した（第14章）
- ⑧選択我名：弥陀が自らの名前のみを選択したこと（対応箇所なし）
（阿弥陀仏の選択①④⑤⑧／釈尊の選択は②③⑥／諸仏の選択⑦）

[資料4]

「真実の信心は、かならず名号を具す。名号はかならずしも願力の信心を具せざるなり。このゆへに、論主はじめに我一心とのたまへり」『教行信証』「信巻」

[資料5]

- ・菩提心：「横／縦（しゅ/じゅ）」と「超（飛び超える）／出（進み行く）」の組み合わせで四つのパターン（堅出・堅超・横出・横超）に仏教を分類（親鸞の仏教教判）『教行信証』「信巻」
- ・一乗思想：「一乗海といふは、一乗は大乗なり。大乗は仏乗なり。一乗をうるは、阿耨多羅三藐三菩提をうるなり。阿耨菩提はすなはちこれ涅槃界なり。涅槃界はすなはちこれ究竟法身なり。究竟法身をうるは、すなはち一乗を究竟するなり。（中略）一乗を究竟するは、すなはちこれ無辺不斷なり。大乗は二乗三乗あることなし。二乗三乗は一乗に入らしめんとなり。一乗はすなはち第一義乗なり。たゞこれ誓願一仏乗なり」『教行信証』「行巻」

[資料6]

- ・南無阿弥陀仏：衆生が阿弥陀仏に南無する → 阿弥陀仏に南無せよ（本願招喚の勅命）
- ・『論註』「作願共往生彼阿弥陀如来安樂国土（共に彼の阿弥陀如来の安樂国土に往生せんと願を作す）→〔仏は〕願を作し彼の阿弥陀如来の安樂国土に往生せしめたまへるなり」『教行信証』「行巻」
- ・善導の深心釈「不得外現賢善精進之相内懷虚仮（外に現賢善精進の相を現し、内に虚仮を懐くことを得ざれ）→ 外に賢善精進の相を現ずることを得ざれ、内に虚仮を懐ければなり（『愚禿鈔』）」